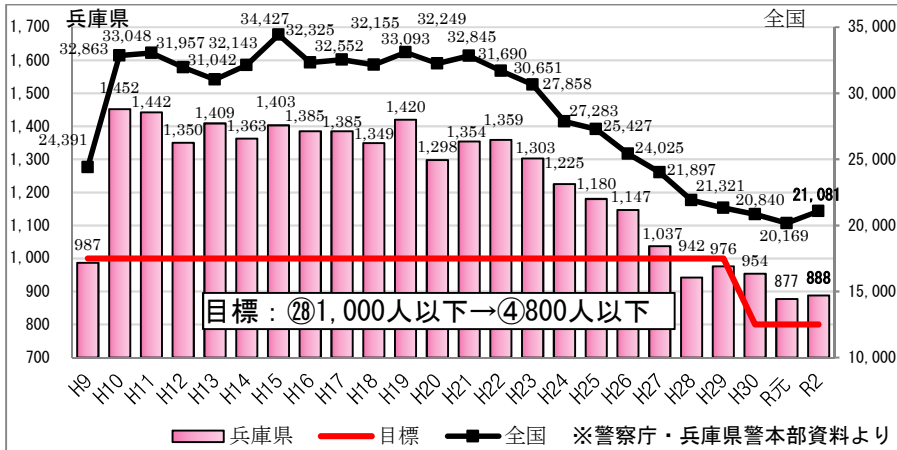


令和2年の自殺者の状況（※警察統計から）

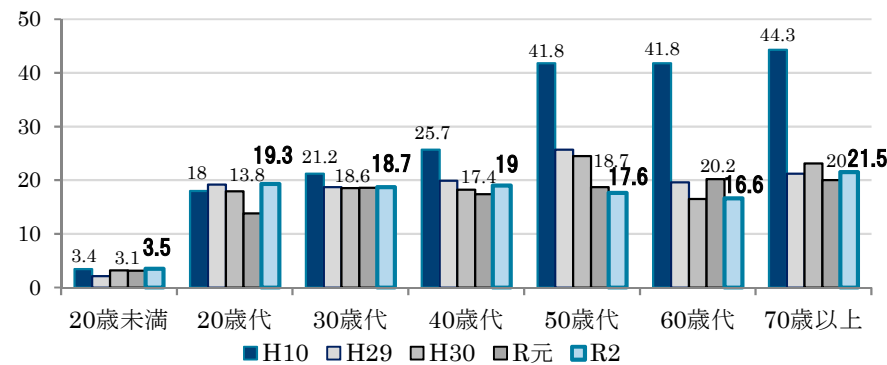
R2年の自殺者数：888人（R元：877人、増減 +11人（1.3%増））
 R元年に引き続き900人を下回っているが、依然、交通事故死者数（②110人 前138人）の約8倍の自殺があることは社会的に重要な課題
 [R3.1~3 252人 R2.1~3 190人（62人増、32.6%増）]
 → 「5年後に（令和4年末までに）800人以下」をめざし、さらなる取組強化

(1) 自殺者数の推移



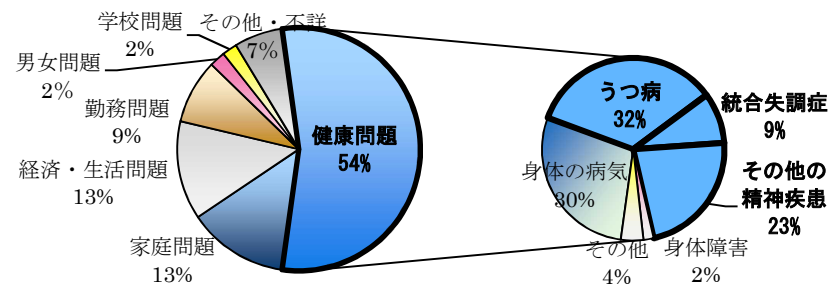
(2) 年齢階層別の自殺死亡率（※人口10万対）

30歳以上では、急増期（H10）から減少傾向となっているものの、R元年からR2年にかけては、50歳・60歳代以外の年代で増加



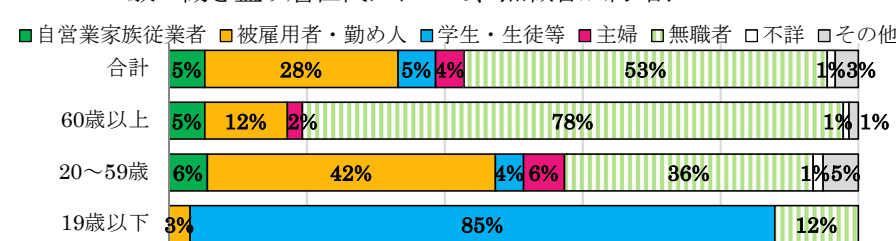
(3) 自殺の理由（R元と同傾向）

健康問題が半数以上を占め、家庭問題、経済・生活問題、勤務問題の順健康問題のうち、うつ病等の精神疾患が全体の64%



(4) 職業別の自殺者の割合

20～59歳の働き盛り層世代において、無職者が約4割



自殺対策の総合的な推進

「兵庫県自殺対策計画」(H29.12 推進方策改定)

〔基本認識〕

- 自殺はその多くが心理的に追い込まれた末の死であり、その多くが防ぐことのできる社会的な問題
- 自殺対策は、生きることの包括的な支援として実施
- 自殺対策は、保健、医療、福祉、教育、労働その他の関連施策と有機的な連携を図り、総合的に実施

〔目標〕

- 一人ひとりがかけがえのない個人として尊重される「自殺のない社会」の実現をめざす。
- 当面の目標：「5年後に（令和4年末までに）県内年間自殺死亡者数800人以下」

〔取組の基本方針〕

- 関連施策との有機的な連携により自殺のリスク要因を抱える人への支援強化
- 地域レベルの実践的取組への支援を充実
- ライフステージ等に応じたきめ細やかな対策を推進

「兵庫県自殺対策計画」に基づく主な取組（R3年度）

1 相談体制の充実強化

(1) 24時間電話相談体制の推進

- 「兵庫県のちと心のサポートダイヤル」相談体制の推進
開設時間：平日 18:00～翌 8:30、土日祝日 24 時間
相談体制：2 名（18:00～22:00 5 名体制）②21,188 件
- 「神戸いのちの電話」「はりまいのちの電話」への支援
相談員の養成、資質向上、新規確保のための研修を支援

(2) 様々な自殺リスク要因を抱える人の相談体制の充実

- 【新】女性のための生きることサポート相談事業
電話相談（火～土曜日 9:00～12:00）、対面相談（必要時）
- 【拡】経済問題等に係る心の悩み相談（弁護士会委託）
休日夜間電話法律相談（毎週土曜日 17:00～20:00、第1・3・4日曜日 17:00～21:00）
平日夜間電話法律相談（月～金曜日 18:00～20:00）
- 【拡】ミドル世代・シニア世代就労相談
- 【拡】子どもの貧困対策
- 【拡】妊娠SOS相談事業
- 児童虐待、DV、犯罪・性暴力被害相談、心身の健康問題支援相談

(3) ICTを活用した相談体制の推進

- LINE公式アカウントを活用した相談窓口の情報発信、LINE電話相談
LINE公式アカウント友達登録数：④4,918人、電話相談件数：②1,399件
- 検索連動型広告による相談窓口の案内（②広告表示343,794回）

(4) 子ども・若者の相談体制の充実

- 【拡】スクールカウンセラー・キャンパスカウンセラーの配置
- ひょうごっ子悩み相談（いじめ・いじめ被害 24時間ホットライン）
- ひょうごっ子SNS悩み相談（民間業者委託、17:00～21:00 対応）

2 地域における支援体制の充実

(1) 【拡】自殺予防に対する理解の促進

自殺予防週間(9月)自殺対策強化月間(3月)を中心に啓発キャンペーン等実施
ラジオ・新聞・WEB啓発、相談窓口一覧チラシ（お守りカード）の増刷等

(2) 地域で「気づき・つながり・見守り」ができる人材の養成

ひょうごいのちとこころのサポーター養成事業（動画視聴申込者数 ②153人）

(3) いのちを支える様々な専門的人材の養成

いのちとこころを支える相談職員養成研修の実施（養成数～②222人）

作成年月日	令和3年5月24日
作成部局課室名	健康福祉部障害福祉局いのち対策室 (自殺対策推進本部会議)

3 市町・団体等の地域ごとの取組への支援

(1) 兵庫県のち対策センターによる市町支援の推進

- 市町自殺対策計画事業の取組支援（④41市町策定済）
（取組例）・ゲートキーパー研修の実施（西宮市、多可町、丹波市、佐用町、淡路市等）
・若年者層に対するいのちの授業（川西市、加古川市、神戸町等）
地域自殺対策強化交付金による事業実施（②全市町）

(2) 専門的技術向上のための研修

自殺対策企画研修、自殺未遂者ケア研修等

4 自殺のハイリスク要因を抱える人への支援の強化

(1) 精神疾患に関わる支援体制の充実

- かかりつけ医と精神科医について、地域単位での連携推進
- ひょうごこころ依存症対策センターによる支援（②電話相談375件）
- 【拡】精神科救急医療体制の運営
- 【新】新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業
- 【新】薬剤師のための自殺リスク者対応力向上研修事業

(2) 自殺未遂者支援体制の推進

- ・自殺未遂者ケア研修の実施（延べ受講者～②578人→③600人）（再掲）
- ・救急医療施設での医療体制の充実

(3) 精神保健医療福祉サービスの連携体制の推進

- ・地域自殺対策連絡協議会
- ・自殺未遂者・既遂者事例検討会の実施

5～7 各年齢階層別の自殺対策の推進

5 子ども・若者

- 学校で取り組む自殺予防支援事業（③8校）
- 【拡】ひょうご仕事と生活センター事業の推進
- 【新】青少年の安全安心なインターネット利用推進事業

6 中高年層

- 企業のメンタルヘルス等推進事業（実施数②142社）
- 【拡】ひきこもり対策総合支援事業（電話相談：②178件、来所相談：②219件）

7 高齢者層

- 介護支援専門員等の自殺予防研修（延べ受講者～②1,331人、③1,400人）
- 認知症・高齢者相談

8 自死遺族等遺された人への支援の充実

- 【新】自死遺族支援者研修会
- グリーフケア講座の実施

新型コロナウイルス感染症に対応した自殺対策の取組

- 【新】女性のための生きることサポート相談事業（再掲）
- 【拡】経済問題等に係る心の悩み相談（弁護士会委託）（再掲）
- 【新】薬剤師のための自殺リスク者対応力向上研修事業（再掲）
- 【新】自死遺族支援者研修会（再掲）
- 【新】新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業（再掲）

問合せ：健康福祉部障害福祉局いのち対策室 078-362-3060

女性の自殺者の状況（新型コロナウイルス感染症の影響）

兵庫県において、女性の自殺者が増加してきた令和2年6月～12月と、前年同期(令和元年6月～12月)を比較した。〔兵庫県内の新型コロナウイルス感染症の第1例は令和2年3月1日〕

出典データ:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

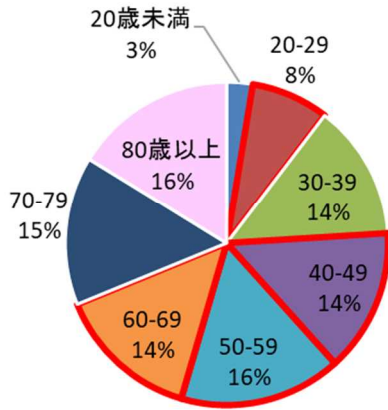
R元.6～R元.12（コロナ影響なし）



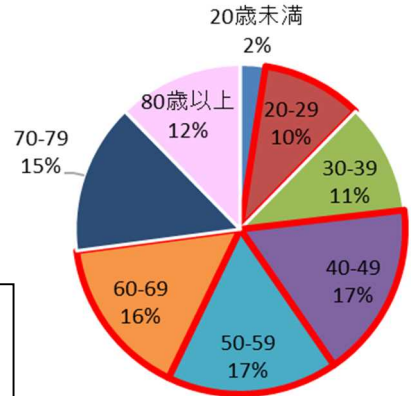
R2.6～R2.12（コロナ影響あり）

【年齢別】

令和元年6月～12月女性【n=154】



令和2年6月～12月女性【n=203】



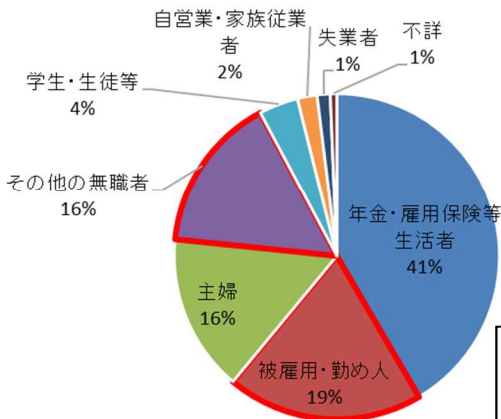
「20-29歳」「40-49歳」
「50-59歳」「60-69歳」
において自殺者の割合が増加

	年代								計
	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上	
令和元年6月～12月	4	12	21	22	25	22	23	25	154
令和2年6月～12月	5	20	22	35	34	32	30	25	203

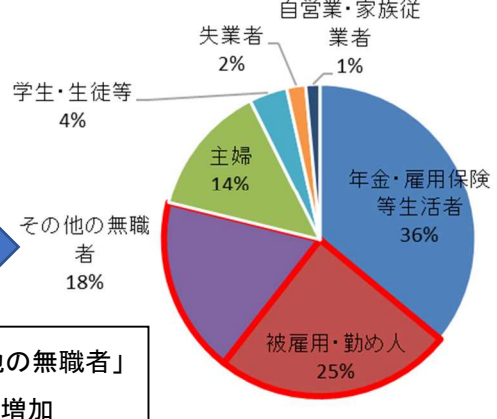
(人)

【職業別】

令和元年6月～12月女性【n=154】



令和2年6月～12月女性【n=203】



「被雇用・勤め人」「その他の無職者」
において自殺者の割合が増加

	職業別								計
	自営業・家族従業者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	
令和元年6月～12月	3	30	6	24	2	64	24	1	154
令和2年6月～12月	3	50	8	28	4	73	37	0	203

(人)